

境谷遺跡 第2次調査



境谷遺跡第2次調査 調査区位置図 (S=1:100000)

所在地 : 鈴鹿市国分町字境谷

調査目的 : 不燃物リサイクルセンター2期事業建設に係る発掘調査

調査期間 : 平成19年5月23日～11月30日

調査面積 : 約7,600 m²

調査主体 : 鈴鹿市

調査機関 : 鈴鹿市考古博物館 (鈴鹿市国分町224番地)

電話 : 059 - 374 - 1994 ホームページ : <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/>

調査協力 : 株式会社 イビソク

1. はじめに

境谷遺跡は、鈴鹿市国分町字境谷に所在し、鈴鹿川左岸の標高 43～44m の段丘上に位置しています。不燃物リサイクルセンター 2 期事業建設に係る埋蔵文化財の記録保存として、平成 17 年度に試掘調査、そして平成 18 年度からは本調査が行われ、今年度で第 2 次を数えます。

境谷遺跡周辺には、中尾山遺跡・沖ノ坂遺跡をはじめとする弥生時代の遺跡、寺田山 1 号墳・富士山 1 号墳などの古墳、伊勢国分寺跡や狐塚遺跡といった飛鳥・奈良時代の遺跡が濃密に分布しています。境谷遺跡は昨年度行われた調査から、主に弥生時代中期と古墳時代後期から奈良時代にかけて営まれていた集落遺跡であることが判明しています。

今年度の調査は第 1 次調査区の北側約 7,600 m² が対象となり、弥生時代、古墳時代、そして飛鳥・奈良時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑が多数発見されました。

2. 調査の成果

遺 構

(1) 弥生時代中期：竪穴住居が 29 棟確認されました。

①竪穴住居 1・・・最大径 9.5m を測る大型の円形住居です。中央には土坑、壁のすぐ内側には壁溝（排水・防湿用の溝）がめぐっています。炭化した木材（柱や屋根材）や焼土塊（赤く焼けた土の塊）が多量に見つかっていることから、火災にあって焼失したものと考えられます。

②竪穴住居 2・・・6.9×4.8m の長方形の竪穴住居です。長軸上に地床炉が 2 基見つかりました。また、その西側に階段状の遺構があることから当時の人々は西側から出入りしていたものと考えられます。

(2) 古墳時代前期：竪穴住居が 10 棟見つかりました。

①竪穴住居 3・・・2 棟が重なって存在する方形住居です。内側の古い住居を埋め立て、ひとまわり大きく建て替えています。内側の住居が 4.8×4.5m、外側の住居が 6.0×5.4m です。住居の北西隅からは残存長約 3 m の溝が谷部に向かって延びています。この住居の壁溝内からは土器が多数出土しました。

(3) 古墳時代後期：竪穴住居が5棟確認されました。うち3棟にカマドがあります。

①竪穴住居4・・・東西5.5m×南北5.3mの方形住居です。今回の調査では最も残りのよいカマドが存在し、土器が多量に見つかりました。壁溝の底部では直径10cm程度の壁柱穴（板壁・草壁を固定するための柱穴）が等間隔に並んでいる様子が観察されました。

(4) 飛鳥・奈良時代：竪穴住居が6棟、掘立柱建物が6棟発見されました。

①竪穴住居5・・・3棟が重なって存在する方形住居です。各住居には一つずつカマドが造りつけられています。内側の1棟は一回り小さく建て替えが行われています。

②掘立柱建物1・3・・・外側だけではなく、内側にも柱がある総柱建物です。建物1は桁行・梁行とも2間（3.4m×3.4m）、建物3も同じく2間ずつ（3.4m×3.4m）となっています。

③掘立柱建物2・・・外回りにだけ柱をめぐらす側柱建物です。桁行3間、梁行2間（4.4×3.6m）を測ります。

(5) その他

土坑2・・・床面が熱を受け赤く硬化した土坑です。平面形は二等辺三角形で、その頂点を谷側に向けています。この中からは炭を多く含んだ土に混じって土師器の破片が出土しました。これらの状況から、当土坑は土師器焼成坑である可能性が高いものと考えられます。

このほか、平安時代の土壇墓、中世の溝・土坑なども見つかっています。

遺物

(1) 土器

① 弥生土器：壺、高杯、甕
「絵画土器」・・・トリの足が描かれた土器が土坑1より出土しました。
第1次調査でも2点見つかっています。

② 土師器：壺、高杯、甕

③ 須恵器：壺、高杯、甕、杯、杯蓋、ハソウ

(2) 石器：ナイフ形石器、石鏃、磨製石剣、石庖丁、石斧

(3) その他：鉄製品、瓦、灰釉陶器、中世陶器、山茶碗



絵画土器



弥生土器 壺 出土状況



打製石鏃



須恵器 高杯 出土状況



ナイフ形石器



須恵器 ハソウ 出土状況



石庖丁

平成19年度 境谷遺跡第2次調査 遺構配置図



竪穴住居 4



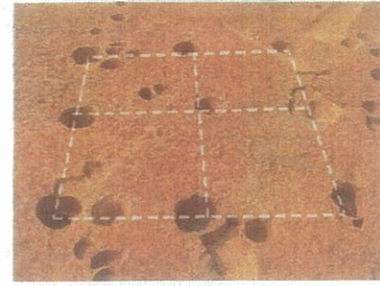
竪穴住居 4 遺物出土状況



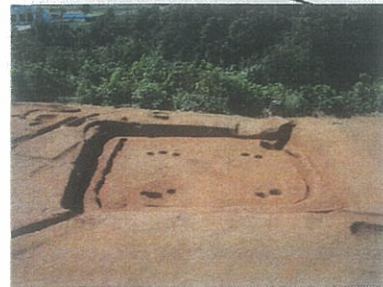
竪穴住居 1



土坑 2



掘立柱建物 3



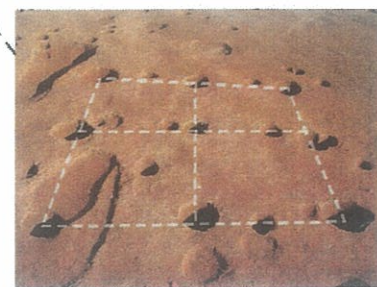
竪穴住居 3



竪穴住居 3 遺物出土状況



竪穴住居 5



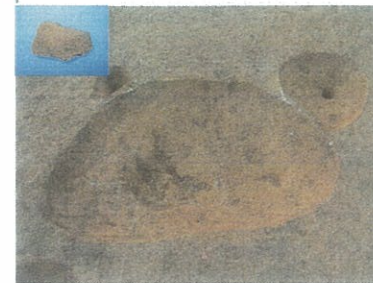
掘立柱建物 1



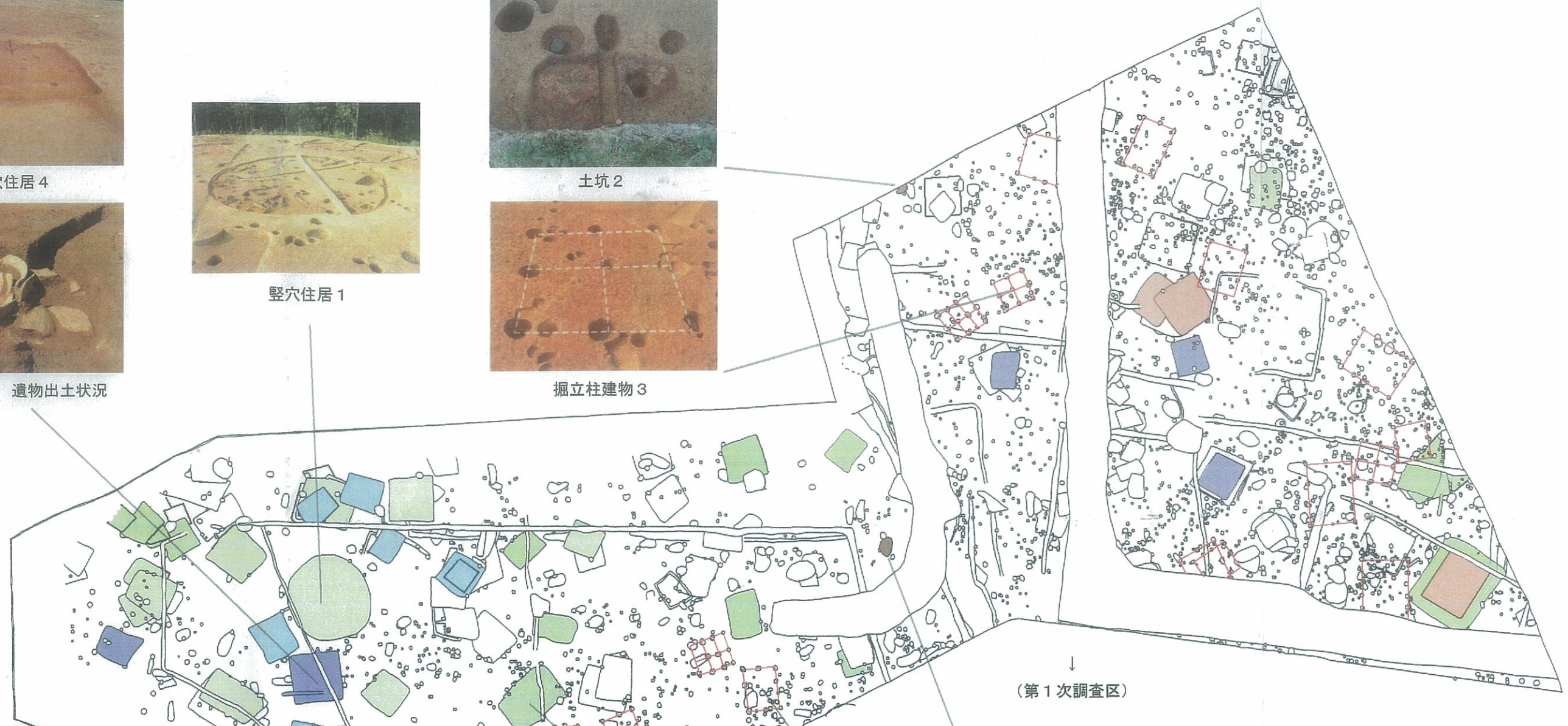
竪穴住居 2



掘立柱建物 2



土坑 1 (絵画土器が出土)



(第1次調査区)

- 弥生時代中期 (29棟)
- 古墳時代前期 (10棟)
- 古墳時代後期 (5棟)
- 飛鳥・奈良時代 (6棟)
- 時期不明・検討中(46棟)
- 掘立柱建物 (18棟)

S=1:500



3. まとめ

今回の調査では弥生時代をはじめとする多くの住居が確認されたことが最大の成果と言えます。加えて、これまでの調査で確認されていなかった古墳時代前期の竪穴住居が発見され、境谷遺跡および周辺の集落の動向を把握するうえで貴重な資料が得られました。鈴鹿川左岸の台地上には弥生時代から奈良時代までの遺跡が数多く分布しますが、今回の調査地点では各時代を通じて集落が営まれていたことが明らかになるとともに、きゅうせつきじだい旧石器時代にさかのぼる資料が出土したことも新たな成果となりました。

弥生時代では大型で円形の焼失住居しょうしつじゆうきよが確認されましたが、同時期の方形住居の中にも焼失したものが見つかりました。このことから住居を放棄するさいのはいぜつさいし廃絶祭祀といった可能性も考えられるようになり、新たな知見を得ることができました。

今回の調査で見つかった古墳時代前期の住居はほぼ5世紀代に収まるものと考えられ、境谷遺跡の近くに富士山1号墳や10号墳が造営されたところに相当します。この時期、鈴鹿川下流域の段丘上では墳墓がさかんに造営されますが、集落域としても利用されていたことが明らかになりました。古墳に葬られた人と血縁的な関係にある人々が居住していたのかもしれませんが。

古墳時代後期以降の竪穴住居は少数になるものの、飛鳥・奈良時代には竪穴住居と掘立柱建物が併存するようになります。境谷遺跡では飛鳥時代に掘立柱建物が普及したものとみられます。この時代、境谷遺跡の周辺では伊勢国分寺が建立され、狐塚遺跡かわのに河曲郡衙くわんがしやうそうの正倉が建てられるなど、古代の人々の盛んな活動が窺えます。これらの遺跡は古代こだい豪族である大鹿氏おおかしと関係があるとされており、境谷遺跡も大鹿氏の影響下にあった集落の一つと考えられます。

前 500	前 400	0	200	400	500	600	700	800	1200
弥生時代			古墳時代			飛鳥時代	奈良時代	平安時代	中世
前期	中期	後期	前期	後期					

年 表

(■：境谷遺跡で集落が営まれていた時期)

用語解説

①焼失住居

竪穴住居の堆積層中に炭化材や焼土塊がみられる住居。縄文時代の草創期からその存在が確認されている。焼失の要因は失火と放火が考えられ、後者の場合には戦乱や住居の廃絶に伴う祭祀行為などに結び付けて説明される場合が多い。

②土師器焼成坑

地面を掘りくぼめ、その穴に土器を並べて焼いたと考えられる遺構。平面形は二等辺三角形あるいは台形を呈するものが多く、底面は度重なる焼成により赤変、硬化する。三重県内では約 400 基の報告例があり、6 世紀中葉から 8 世紀まで存在する。

③絵画土器

表面にヘラ状または棒状の工具を用いて絵を線刻した土器。最も多く描かれる画題はシカで、その次がトリ、建物。トリは穀霊を運んでくる使者として神聖視され、農耕祭祀との密接な関係が指摘されている。

④ナイフ形石器

ナイフ状を呈する片刃の打製石器。日本の後期旧石器時代を代表する石器である。剥片を素材として制作され、片方の縁辺はナイフの刃のように鋭く、もう一方の縁辺には刃潰し加工がなされる。

⑤石庖丁

イネ科栽培植物の収穫に用いられた穂摘具。「石庖丁」という名前自体はエスキモーが用いる調理用のナイフに由来する。

⑥大鹿氏

古代伊勢国の有力氏族の一つ。その名は『日本書紀』や『続日本紀』にみられ、現在の鈴鹿市国分町を中心に勢力をもっていたと考えられている。敏達天皇（572～585 年）のときに采女（天皇・皇后に仕える女官）を出したことは有名であり、四日市市には采女町の名が残る。

データ

遺 構	弥生時代中期	:	円形竪穴住居 1 棟	方形竪穴住居 28 棟	土坑 29 基
	古墳時代前期	:	竪穴住居 10 棟	土坑 1 基	
	古墳時代後期	:	竪穴住居 5 棟	土坑 2 基	
	飛鳥・奈良時代	:	竪穴住居 6 棟	掘立柱建物 6 棟	土坑 22 基
	平安時代	:	土壇墓 1 基	土坑 1 基	
	中世	:	土坑 5 基		
	時期検討中	:	竪穴住居 46 棟	掘立柱建物 12 棟	土坑 122 基